

「令和6年能登半島地震」の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2025年12月31日、
深さ0～30km、M≥3.0)

震源のプロット

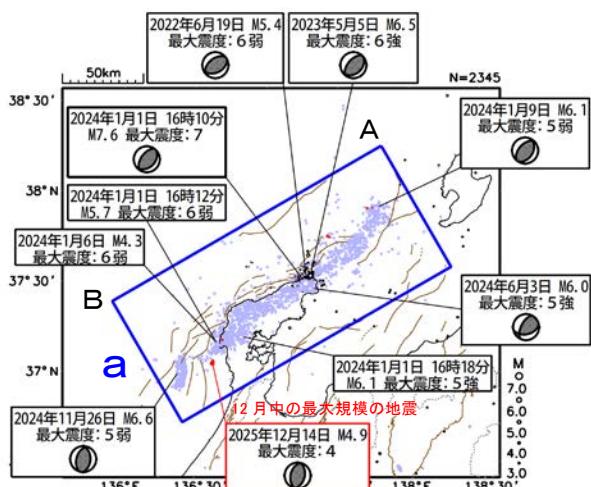
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～2025年11月30日

赤色 2025年12月1日～31日

吹き出しへ最大震度6弱以上の地震、M6.0以上の地震
及び12月中の最大規模の地震

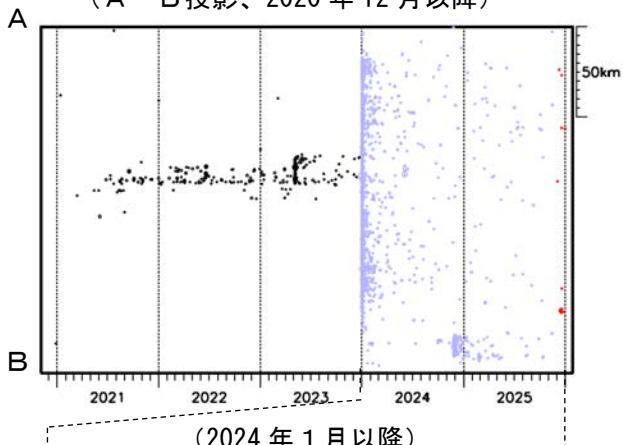
図中の発震機構はCMT解



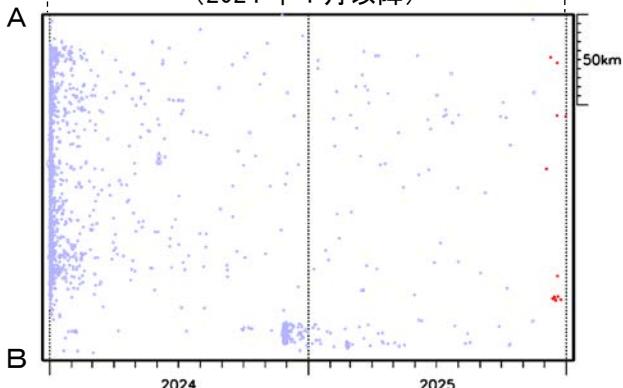
図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

領域a内の時空間分布図

(A-B投影、2020年12月以降)



(2024年1月以降)



能登半島では2020年12月から地震活動が活発になり、2023年5月5日にはM6.5の地震（最大震度6強）が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

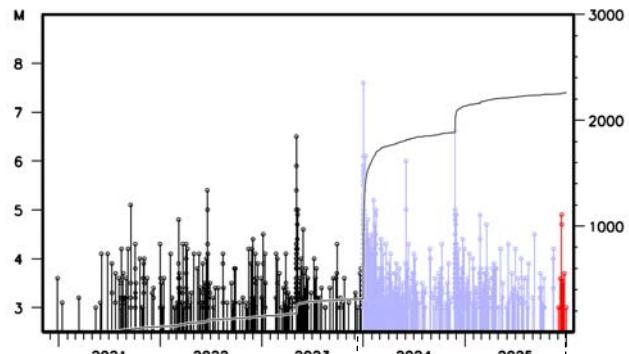
2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震（最大震度7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東～南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。M7.6の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日にM6.6の地震（最大震度5弱）が発生した。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、12月中に震度1以上を観測した地震は13回発生するなど、活動は継続している。なお、12月中の最大規模の地震は、14日23時26分に石川県西方沖^(注)の深さ8kmで発生したM4.9の地震（最大震度4）である。この地震の発震機構（CMT解）は西北西～東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

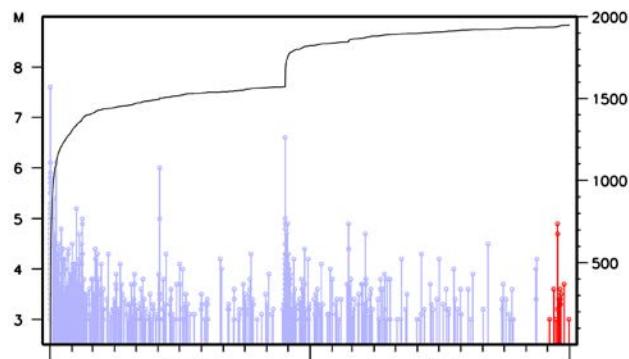
(注) 情報発表の震央地名は「能登半島沖」である。

領域a内のM-T図及び回数積算図

(2020年12月以降)



(2024年1月以降)



令和7年12月 地震・火山月報（防災編）

